

燐安価格再び上昇の気配

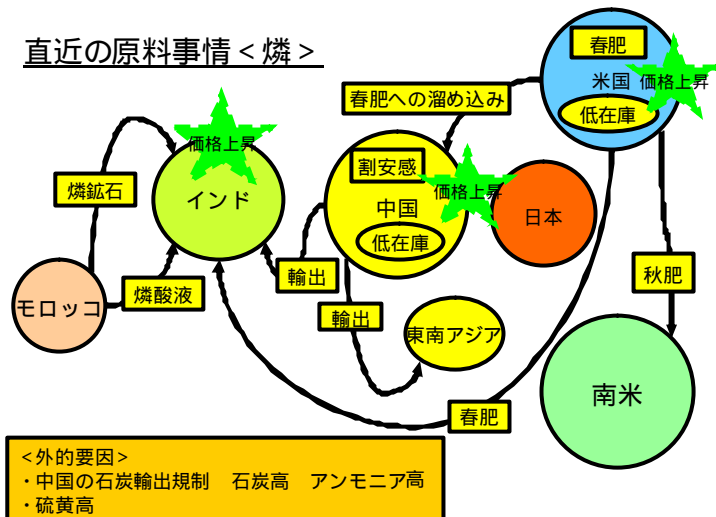
～ 2010年海外肥料原料事情

ここへ来て燐安の価格が再び上がってきた。米国タンパでは今週の値動きは昨年11月の価格の比べると180%近い値上がりを見せている。これを受け日本の国内価格も上げ相場の展開となってきた。米国の値上げが続けば更に国内価格も上昇する基調だ。

燐安の価格が上昇してきた背景には、中国の燐安バランス、米国の燐安バランス、南米、インドの燐安バランスが絡み合っている。ここまでの流れと今後の展望はどうなるのかを解析してみた。

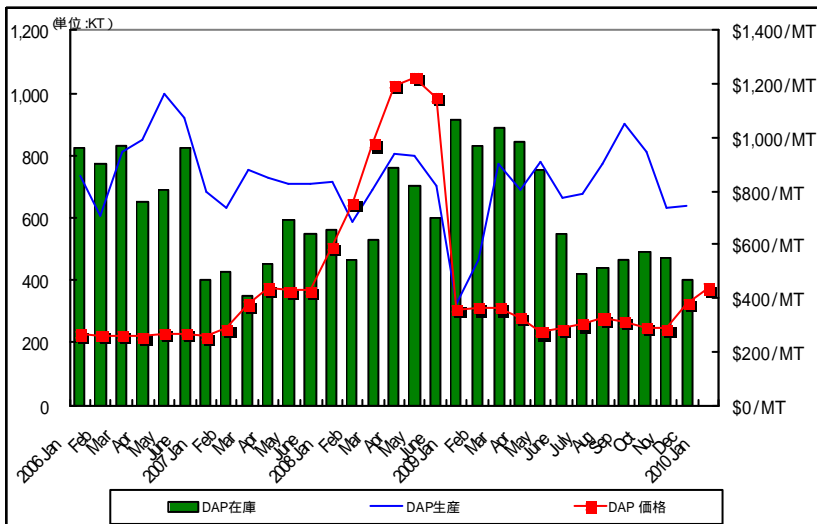
中国燐安バランス：昨年中国は、カリ価格の高騰を反映し化成肥料の需要は半分に落ち込み、割安感のある燐安の需要は前年比30%の上昇となった。旺盛な国内需要に牽引され各社燐安の低在庫が続く中、10月16日より再び輸出税が110%から10%になり、インド・東南アジアへの輸出が進み低在庫に拍車がかかってきた。また、中国国内においても冬場の大雪に備え、需要地の華北・東北地区が生産地の華南地区から例年より若干早めに荷物を引き始めたことも、メーカーの在庫を押し下げる要因のひとつとなった。年明け後も中国メーカーは旺盛な需要に支えられ価格は上昇の一途をたどり、各メーカー低在庫の中、1月末を迎え輸出税が110%となる2月となった。これで、6月に輸出関税が下がるまで(今年から不需用期の輸出税は7%に低減)、中国品はアジア市場に出回らない。

直近の原料事情<燐>



硫黄不足が価格上昇の一因

米国燐安バランス：09年年初に約90万トンあった異例の高在庫(過去3年の平均在庫は65万トン)は、稼働率を50%以下とする大幅な生産調整が功を奏し6月によく55万トンレベルまで在庫が圧縮されたが、その間、価格は下落の一途を辿っていた。7月以降は過去最低レベルまで在庫が調整され、その後40万トンレベルで12月を迎えた。価格が本格的に上昇し始めたのは11月で、中国の燐安価格が上昇を受け、中国向けに米国から50万トンの大型輸出成約があった。この為、米国国内在庫低減に拍車がかかり、春肥の品不足懸念から市場は買いの相場展開となったが、国内需要が復調してきたことで実需に基づき国内価格は上昇し、昨年11月比180%近



米国DAP 生産・消費・在庫推移

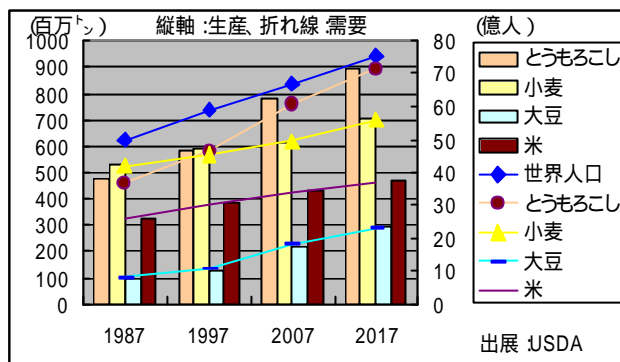
(次ページへ続く)

くとなった。米国タンパの輸出価格は更に上昇する見通しだ。旺盛な国内需要に牽引されて価格上昇しているが、11・12月の米国国内の燐安生産量は9・10月に比べ20～30万トン減少している。原因は米国の石油精製プラントが、不況による需要減と中国・インドの新設工場稼働による供給増による採算悪化から稼働率を落とし、副産物である硫黄の供給が不足したことのようだ。米国燐安メーカーはこの原料高騰分を燐安の価格に転嫁していることも、現在の価格上昇の一因となっている。

インド燐安バランス：インドは、国内需要970万トンに対し国産燐安の供給は約320万トンに留まり09年に6百万トン程度の燐安を輸入した。インドでは昨年4月よりインドの補助金制度が改定され成分単価に対し補助金がつき燐安が多く輸入された。昨今の燐安国際相場の高騰では燐酸液を輸入して国産燐安を生産するほうが安くなるが、一方では燐酸液の価格上昇並びに国産燐安の限界もあり輸入燐安への依存体制に変化はない。中国の輸出窓が6月まで開かず、米国も低在庫、インド・南米の需要が旺盛と思われる中、硫黄不足の下支えもあり燐安の上昇はしばらく続くものと見ている。

中長期の見通し

農林水産政策研究所は「2019年における世界の食料需給見通し」を発表したが、それに先立ち米国農務省は2017年までの食料需給見通しを公表している。両報告書で共通することは、世界の食料需給は、中長期的には人口の増加、所得水準の向上等に伴うアジアなどを中心とした食用・飼料用の需要に加え、バイオ燃料原料用の農産物の需要の増大も要因となり、今後とも穀物等の在庫水準が低く需給が逼迫した状態が継続する見通し



である。穀物価格は2010年1月以降南米の豊作予測や、需給緩和予測等により値を下げてきているものの、2006年秋頃に比べ1.3～1.9倍の水準であり、依然として高い水準でかつ、上昇傾向で推移する見通しであると報告している。単収アップに基づく肥料需要も同様な傾向を歩むと予想される。

J G A P 認証農場 合同商談会 in FOODEX JAPAN 2010

来る3/2(火)～5(金)、海浜幕張メッセ(千葉県)に於いて、国際食品・飲料展FOODEXJAPAN2010が開催される。昨年は多くの来場者で大盛況であった。今年もNPO法人日本GAP協会がブースを設け、JGAP認証農場と青果バイヤーや食品加工業者等の商談会を企画している。JGAP認証農場・認証団体はもちろん、JGAP取り組み中の農場・団体も参加できる。各認証農場の希望日に合わせて30分区分切りで商談が行われ、その他、認証農場の生CMやミニ講演も行われる。商談相手は大手小売店のイオン(株)、(株)イトーヨーカ堂、(株)ダイエー、(株)シジージャパン、(株)ケーアイ・フレッシュアクセス(KIFA)、青果卸東京デリカフーズ(株)(外食向け卸・業務向け卸・野菜・果実)、ANAロジスティクスサービス(輸出向け卸・ホテル向け卸)、ミツハシ(量販小売向け卸・業務向け卸・米)、MCプロデュース(業務向け卸・量販小売向け卸・野菜・果実)、横浜丸中青果(量販小売向け卸・業務向け卸・野菜・果実)等多数。野菜と果実のバイヤーが主に集まるのは3/2、4、5、米と茶のバイヤーが主に集まるのが3/3のようだ。また、海外輸出向けバイヤーが来るのは3/2だそうである。http://www3.jma.or.jp/foodex/ja/index.html



いよいよ今週末より冬季オリンピックが開催されます。第一回大会は1924年シャモニー・モンブラン(フランス)で開催されましたが、実はこの大会はフランス主催、IOC後援の国際冬季競技週間でした。試験的に開催し、大成功を収めたので追認されて第一回大会に。それから86年。今回はどんなドラマがあるのか、テレビに釘付けになりそうです。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp